



普通の猫好きで、震災後、被災動物ボランティアをいままでしている者です。ただ、身の回りの野良猫、地域猫のことも自然に関心をもつようになりました。ドキュメンタリー映画が大好きで、音楽や、予告編のテロップの明るく自然な感じがとてもよくて、監督のストーリー、猫たちとからめてのお話の運びに引き込まれました。地域猫の活動はどうされているのか、とてもよくわかったし、2人で主婦が立ち上げてというところも親しみを持ちました。(50代 「ねりまねこ」ブログとツイッターで知った)

とてもおもしろかったです。ポレポレで上映したらいいなと思いました。

猫の映画というか、一般の映画、ドキュメンタリーとしてとてもよくできていると思います。

私は猫2匹いて新大久保に住んでいますが、地域猫がとても多く、毎日楽しいです。

猫がいる町は大好きです。

私の周りにも猫の里親になりたいけどペット不可だからという方が多いので、日本の場合、住宅問題が大きいのかなと思います(40代 女性 youtubeの動画から)

やさしい映画でした。とてもよかったです。多くの人に見てもらいたいと思います(男性 60代)

きょうは電車遅延のため、最初に20分から30分を見れなかったのですが、上映に間にあってよかったです。

ドイツティアハイムの実際の映像を見ることが出来て大変勉強になり、そして、ドイツ(ドイツの人たち)は素晴らしいと思いました。

いまの自宅がペット不可の住宅なので「犬猫救済の輪」というボランティアさんの所の「モンタン」という猫ちゃんのフォスターペアレントになったり自分でできることを色々考えて行動するようにしています。

川越の保護猫カフェ「ねこかつ」もたまに足を運んでいます。私は何もボランティア活動とよべることをしていないので、これからTNRなどもやりたいと思っています。「ねこかつ」が毎月1回開くようになった「TNR勉強会」に先日参加し教えていただいたので、近所のお家のクロ猫ちゃん、えさをもらっている猫ちゃんのTNRができればと思っています。小学生の息子と来ましたが、小学校でも上映してほしいです。(40代 女性)

ナレーションがとてもよかったです。また猫とのスタンスが程よく、愛護派であってもなくても理解を得られれば良いとおもう。やはりベルリンやポートランドの取り組みを見ると、地域の住民の力で支えられていて、国は無策である。殺処分0(ゼロ)にしたい目標は私もわかりません。(60代 女性)

飼い犬をなくしたのを機に、地域猫の会のお手伝いをするようになりました。猫たちが可愛くて、お手伝いのたびにいやされていますが、だんだんと、かわいいだけではすまない問題もあると学ぶようになりました。これからももっと役に立てること、自分にできることを考えていきたいなと思いました。(30代 女性)